

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：スポーツ振興対策費

事業名 競技力向上対策費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

清流の国推進部 競技スポーツ課 競技スポーツ係

電話番号：058-272-1111 (内 2950)

E-mail：c11173@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 173,530 千円 (前年度予算額：166,153 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄 附 金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	166,153	0	0	0	0	0	0	0	166,153
要求額	173,530	0	0	0	0	0	0	0	173,530
決定額									

2 要求内容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

ア 国体強化対策事業

国体で開催される41競技の強化策として、各競技団体が実施する強化合宿、遠征費等に要する経費を成年男女・少年男女ごとの競技力に応じて助成するとともに、指導者育成等、競技力向上に向けた事業を実施。

- ・強化合宿、遠征費助成
- ・新規国体種目事業
- ・特殊種目支援事業(特殊性の高い種目への配慮)
- ・高トレ活用事業

イ 優秀指導者養成事業

県内指導者の養成・指導力向上を図るため、各競技団体のニーズに応じ、常勝指導者(チーム)に帯同しての研修、優秀指導者招聘による指導講習にかかる経費を支援[間接補助]

- ・常勝指導者(チーム)研修事業
- ・優秀指導者招聘事業

ウ 未来の清流アスリート育成事業

競技団体が主体となる、小中学生を対象にした普及・発掘を目的とした

スポーツ教室や強化練習会、次期少年国体選手に向けた選抜強化などの事業費を支援[間接補助]

- ・ 国体入賞選手育成プログラム
…全国大会で入賞できる次期国体少年選手の育成、強化練習会
- ・ 清流アスリート合同練習プログラム
…国体選手（成年・高校生）との合同練習
- ・ 普及、発掘プログラム…競技人口拡大を目指すスポーツ教室

※従来の地区トレ・県トレベースプログラムは、国体入賞選手育成プログラムに含める。中学校部活動支援プログラムは廃止

エ 特殊器具整備支援事業

- ・ 各競技団体が特殊器具を整備する際に要する経費の一部を助成。
- ・ 器具や用具の開発が著しい競技においては短い周期（五輪開催ごとに国際基準が変わる）で規格が変わり、その都度、特殊器具の整備が必要。
- ・ 特殊器具は、高額で個人や各競技団体に整備するには限界があることから、古い機種の器具や用具を使用しているのが現状

(2) 事業内容

- ・ 各競技団体が実施する強化合宿や遠征費、指導者養成等に要する経費を競技力に応じ、支援。
- ・ 器具の開発が著しく、性能が成績に大きく影響する競技や、経済的な負担が大きく、競技力向上に寄与する競技について、特殊器具を計画的に整備し、競技力の向上を図る。
- ・ 各競技団体の強化の実態を最も把握している（公財）岐阜県スポーツ協会に業務委託をする。

(3) 県負担・補助率の考え方

現在の競技力の維持、向上のための強化策を展開するためには、県の支援が不可欠である。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
委託料	84,021	ア 国体強化対策事業費
	5,889	イ 優秀指導者養成事業費
	54,036	ウ 未来の清流アスリート育成事業費
	10,000	エ 特殊器具整備事業費
	19,584	オ 県スポーツ協会委託事業事務費等
合計	173,530	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各計画での位置づけ

岐阜県清流の国スポーツ推進条例 13 条 清流の国ぎふスポーツ推進計画

(2) 事業主体及びその妥当性

少年から成年まで一貫した育成・強化をおこなうためには、関係団体との連携を図ることが重要であり、県として強化に向けた支援を行う。

事業評価調査書

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

(事業目標)

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

ア 国体強化対策事業

ぎふ清流国体を終え、7年が経過しており、引き続きスポーツにおける岐阜県の競技力を維持するため、国体総合成績8位以内という目標を設定している。国体後の強化体制が維持されている種別とそうではない種別を見極め、メリハリをつけた強化策を実施することで、総合成績において天皇杯、皇后杯8位を目指す。

イ 優秀指導者養成事業

現行の指導者のさらなる指導力向上と、「ぎふ清流国体」において活躍した選手を、今後本県のスポーツ振興を担う有望な指導者として養成する。特にジュニア世代選手を育成する指導者養成に力を入れる。

ウ 未来の清流アスリート育成事業

県内ジュニア世代の優秀選手を早期に発掘し、競技団体主導のもと、地区、県で選抜された選手の育成、強化を図ることにより、全国レベルで活躍できる人材を育てる。また、各競技団体の強化組織、強化拠点といったシステムを整備し、各競技団体の他種別と合同で練習する等、強化システムを構築することによって、当県全体の競技力向上を図る。

更に恒常的な全国大会における多数入賞と次期少年国体選手の強化を目指し練習会等を実施する。

エ 特殊器具整備事業

特殊器具を計画的に整備することで、毎年度の国民体育大会に向けて常に本県選手の能力が十分発揮されるよう条件整備を行う。

(目標の達成度を示す指標と実績)

ア 国体強化対策事業

指標名	事業 開始前	指標の推移		現在値 (前々年度末時点)	目標値	達成率
		1 3 位 (H29)	1 4 位 (H30)			
国体天皇杯 (男女総合) 成績	1 5 位 (H27)	1 3 位 (H29)	1 4 位 (H30)	1 9 位 (R1)	8 位 (R 3)	%

国体皇后杯 (女子総合) 成績	1 1 位 (H27)	1 3 位 (H29)	1 7 位 (H30)	1 8 位 (R1)	8 位 (R 3)	%
--------------------	----------------	----------------	----------------	---------------	--------------	---

イ 優秀指導者養成事業

指標名	事業 開始前	指標の推移		現在値 (前々年度末時点)	目 標	達成率
常勝指導者 (チーム) 研修事業	—	10 名 (H29)	6 名 (H30)	7 名 (R1)	10 名 (R3)	70%
優秀指導者招聘事業	—	19 名 (H29)	21 名 (H30)	25 名 (R1)	30 名 (R3)	83%

ウ 未来の清流アスリート育成事業

指標名		事業 開始前	指標の推移		現在値 (前々年度末時点)	目 標	達成率
小学生	個人 (上位入賞)	—	(H29) 1 9	(H30) 1 8	(R1) 2 9	(R3) 3 0	96.6%
	個人 (下位入賞)	—	9	9	1 0	3 0	33.3%
	団体 (上位入賞)	—	2	0	0	1 0	0%
	団体 (下位入賞)	—	0	1	5	1 0	50%
中学生	個人 (上位入賞)	—	2 1	1 7	2 5	3 0	83.3%
	個人 (下位入賞)	—	3	1 5	9	3 0	30.0%
	団体 (上位入賞)	—	4	4	2	1 0	20.0%
	団体 (下位入賞)	—	2	2	4	1 0	40.0%

エ 特殊器具整備事業

指標名	事業 開始前	指標の推移		現在値 (前々年度末時点)	目 標	達成率
国民体育大会総合 成績順位	18 位 (H17)	13 位 (H29)	14 位 (H30)	19 位 (R1)	8 位 (R3)	%

○指標を設定することができない場合の理由

--

(前年度の取組)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の活動内容 (会議の開催、研修の参加人数等) <p>ア 国体強化対策事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 強化練習…遠征、合宿費を助成 ・ 強化会議…国体に向けた強化方針、国体への戦略等を周知 ・ ヒアリング…強化状況把握、国体に向けた戦力分析、目標等の聞き取り

- ・特殊種目支援…用具、器具、活動に特殊性のある競技に対して運搬料会使用料、登録料等を加配

イ 優秀指導者育成事業

優秀指導者を全国から招き、県内のジュニア指導者を中心とした研修を行うことにより、指導者の育成と指導力向上が図られており、ジュニア育成における好影響が今後見込まれている。(20 団体)

全国常勝チームにおける研修については、強豪チームの練習会で得た経験や知識が、県内チームに還元され、選手の競技力向上に繋がっている。(4 団体)

ウ 未来の清流アスリート育成事業

39 競技 42 種目を対象に、選手発掘、地区・県選抜練習会、他種別との合同練習会等を実施するための交通費や宿泊費、会場費、指導者謝金等を助成した。

エ 特殊器具整備事業

全 5 競技に対し、以下の特殊器具整備を行った。

- ① ヨット（競技艇）
- ② 自転車（車輪）
- ③ ボート（競技艇）
- ④ ライフル射撃（エアライフル等）
- ⑤ カヌー（競技艇）

（前年度の成果）

- ・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果

ア 国体強化対策事業

茨城国体では、天皇杯 19 位、皇后杯 18 位と前年より成績を下げる結果となった。大きな要因としては、東海ブロック大会での敗退が挙げられる。令和元年度の東海ブロック突破種目数は 47 種目（前年比▲8）、1 位通過数は 27 種目（前年比▲14）であった。愛知県の競技力はもともと高いが、国体開催を来年度に控える三重県の競技力が上がっているほか、静岡県も危機感を持ちここ数年強化を見直している。結果的に本県は、愛知県だけではなく三重県や静岡県にブロックで敗退することになり、本大会への出場を阻止されている。

しかし、天皇杯、皇后杯の順位は下がったものの、競技別天皇杯を獲得したスポーツライミングや、競技別皇后杯を獲得したホッケーの活躍をはじめ、5 競技 6 種目での団体種目での優勝は、今後につながる結果となった。

イ 優秀指導者育成事業

本事業については、充実したジュニア指導者の育成の推進を目的に事業を展開している。

① 「優秀指導者招聘事業」

日本一の経験があるなど優秀な指導実績のある指導者を岐阜県に招聘し、県内指導者のための講習会を開催し、最新の指導法を学ぶ。

② 「常勝指導者（チーム）研修事業」

日本一の経験がある全国常勝指導者のもとで、指導法を直接体得する。研修後は、研修事業で学んだ事を県内指導者に幅広く周知する講習会の開催を義務付けている。

事業実施状況の把握と事業実施の回数（実績）の積み上げの明確化を図るため、各競技団体の実施状況を把握するため、新たな実績報告書を提示。成果を具体的に把握している。当事業により、指導者の指導力向上が図られ、特にジュニア育成に関して効果が出ている。

ウ 未来の清流アスリート育成事業

小学生～中学生の中から、優秀な選手を選抜して合同練習会や強化合宿等への支援策を講じたことによって、各競技団体の競技力向上が図られている。引き続き、次期少年国体選手の育成、強化を目標に取り組むことを推進する。選手層の薄い競技については、普及のためにスポーツ教室や体験会を実施し、普及に努める。

エ 特殊器具整備事業

技術革新に伴い器具の開発が著しく、器具の性能が競技成績に大きく影響する競技や、他の競技と比較し、個人や競技団体が独自に整備するには経済的な負担の大きく、器具の整備が競技力向上に寄与する競技について、特殊器具を計画的に整備し、競技力の向上を図った。

2 事業の評価と課題

（事業の評価）

<p>・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い △：必要性が低い</p>	
（評価） ○	<p>ア 国体強化対策事業 国体に向けた選手強化が、県全体のスポーツの振興及び競技力の向上に大きな影響を占め、また育った少年選手が成年として活躍する等スポーツの循環をつくるなど、本事業の必要性は大きい。</p>
（評価） ○	<p>イ 優秀指導者養成事業 国体を契機に高まった競技力の維持及び地域に根付いた競技のさらなる振興・発展を図るためには、現在の指導者の指導力向上を図るとともに国体をはじめ、選手として活躍したトップレベルの人材を優秀な指導者として養成していく必要がある。</p>
（評価） ○	<p>ウ 未来の清流アスリート育成事業 競技団体主導による小学生から中学生までの系統化された強化体制によって競技力の高い選手を育成することができる。競技団体が主体的に取り組む強化活動により、全国のトップレベルで活躍する選手、国体少</p>

	年種別で活躍する選手を育成するために継続が必要な事業である。
<p>・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか）</p> <p>○：概ね期待どおり又はそれ以上の効果が得られている</p> <p>△：まだ期待どおりの成果が得られていない</p>	
(評価)	ア 国体強化対策事業 ぎふ清流国体後も競技力を維持し、好成績を残している競技団体がある一方で、成年選手の引退や、練習量の確保が難しく、成績を落としている競技団体がある。
○	
(評価)	イ 優秀指導者養成事業 指導者の指導力向上は、選手の競技力向上に直結するため、本事業の有効性は非常に高い。
○	
(評価)	ウ 未来の清流アスリート育成事業 事業内容を見直し、指標とする主要大会をJOCジュニアオリンピックカップ等と再設定することとなり、見極めできるには少し時間を要するものであるが、一定の効果を見込むことができる。
○	
<p>・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか）</p> <p>○：効率化は図られている △：向上の余地がある</p>	
(評価)	ア 国体強化対策事業 頻繁に競技会、練習会に出向き、競技団体関係者と意見交換しながら、強化事業回数や期間を増やし、練習内容（強豪県との練習）等の質を上げることで、費用対効果を図ることができた。
○	
(評価)	イ 優秀指導者養成事業 常勝指導者（チーム）研修、優秀指導者招聘事業については、研修で得た経験や知識が、今後の指導に生かされ、選手の競技力向上につながるものと見込まれる。
○	
(評価)	ウ 未来の清流アスリート育成事業 競技団体へのヒアリングを実施、計画的、戦略的に強化が図られるよう指導している。また、強化システムの構築、整備に努めている。試合や練習会場に出向き、強化の実態を把握するとともに優秀な選手の情報収集を行っている。
○	

(今後の課題)

<p>・事業が直面する課題や改善が必要な事項</p> <p>ア 国体強化対策事業</p> <p>今まで築き上げてきた強化システムを定着させることはもちろん、競技力向上の条件（指導者確保や選手確保等）が整備され、今後競技力の向上が見込まれる種目には、強化支援を手厚くするなど、戦略的支援が必要である。また、高地トレーニングエリアを活用した競技力向上を目指した活</p>

動を定着させる。

イ 優秀指導者養成事業

ぎふ清流国体で築きあげた本県の競技力を維持、さらなる強化を図るためには、ジュニア世代の強化が必須であり、その指導者の養成は継続的な取り組みが必要である。引き続き、常勝指導者（チーム）研修、優秀指導者招聘により、ジュニア選手を指導する指導者のスキルアップを図る等、より効果的な事業を展開することが必要となる。

ウ 未来の清流アスリート育成事業

主体的な競技団体による強化が進むよう競技団体の強化組織、強化拠点といったシステムの見直しを定期的に行い、強化体制を強固なものにしていく必要がある。また、選手が育成・強化に取り組むことができるようスポーツ環境を整備していくことが必要である。

エ 特殊器具整備事業

今後、競技人口の増加に伴い器具の整備が増加した際に、各競技団体で器具を整備するため経済基盤を確立できるよう指導していく必要がある。

（次年度の方向性）

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか

ア 国体強化対策事業

ぎふ清流国体から5年が経過し、特に成年種別での二極化が進んでいる。国体後も継続して選手が十分な活動を行えている競技（種別）と、競技特性から引退を余儀なくされ、練習の量や質が落ち、競技力が低下している競技（種別）がある。本事業は県内競技団体の競技力向上の中核的な事業であるが、今後は、競技力向上の条件が整い、今後競技力向上が見込まれるか否かをしっかり見極め、メリハリをつけた強化策にしていく必要がある。

イ 優秀指導者養成事業

オリンピック選手等、多くのトップアスリート輩出には、更なる指導者養成が必要である。引き続き、常勝指導者（チーム）研修事業によって、指導者の指導力向上を図っていく必要がある。また、全国から優秀な指導者を招聘し、ジュニアの指導者を中心に幅広く県内の指導者のレベルアップを図る。

本事業は、今後も指導者養成に重要な役割を果たしていくと考えられ、競技団体の実態に合わせた事業を計画的に展開することで、継続して優秀な指導者の養成を図る。

ウ 未来の清流アスリート育成事業

各競技団体による強化体制を生かしてジュニア強化の拡充を図る。長期的な視野で、当県全体の競技力向上を図っていく上で、ジュニア層への

支援は不可欠である。また、中学校部活動における現状を考慮し、強化の方針を明確にし、各機関が常時連携しながら進めることが不可欠である。

エ 特殊器具整備事業

ぎふ清流国体を契機に向上した競技力を、一過性のものにするのではなく、高いレベルで維持するためにも、特殊器具の整備は不可欠であり、対象とすべき競技、整備する器具を毎年度検討し、効率的な特殊器具整備を継続していく必要がある。また、競技力の向上においてピンポイントで整備をしていく。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	—
組み合わせて実施する理由や期待する効果 など	—